

第 33 回市川海岸塩浜地区護岸検討会に対する意見

2010/10/12

千葉大学 倉阪秀史

本日は、大学の講義が 19:20 までありますので、大変残念ですが、検討会に出席できません。恐縮ですが、文書で意見を提出させていただきます。

護岸のバリエーションの検討が終盤に近づいていることは承知しておりますが、「人の健全なにぎわいが期待できる護岸になるかどうか」について、再度確認していただければ幸いです。

「海に向き合うまちづくり」を市川塩浜ですすめられるに当たって、人が海に親しむことができるような護岸になっているかどうか、今一度検討していただければ幸いです。

茜浜、新習志野、新検見川などの護岸は、残念ながら、人のにぎわいに欠け、特に夜間には近づくことがはばかれる護岸となってしまうています。そのような護岸を、市川塩浜 2 丁目では作るべきではありません。

しかしながら、これまでのバリエーションの検討状況をかんがみると、徐々にバリエーションの幅が縮小していき、工業地帯にありふれたような護岸が作られることに終わってしまうのではないかと危惧しております。このままでは、ブルーシートの不法居住者があふれる護岸になってしまわないでしょうか。

昼間は、三番瀬の景観にふれ、三番瀬の恵みを楽しむ人でにぎわい、夜間においても、レストランなどが開業し、食後などに健全に散策ができるような、安全でにぎわいのある護岸にするべきです。おそらく、地元の経済にとっても、このような護岸の方がよいと思われるのではないのでしょうか。

このために、例えば、茜浜などとは違った工夫（景観上の工夫（護岸の配色、緑化等）、構造上の工夫（眺望の確保、海とふれ合う場の確保等）、その他の工夫（安全面の配慮、商業施設との連携等））をどのように凝らしたのかを具体的に説明できるようにしていただければ幸いです。